

日韓 10 人のアーティストの写真作品が京都で競演

- 日韓国交正常化 60 周年を記念 - 7月4日から28日まで京都市で

【プレスリリース】発表日:2025年6月24日

日韓国交正常化 60 周年を記念した展覧会「** 間間 (ま) をつくる — 韓と日のあいだに」を7月4日から京都府京都市で開催します。日本と韓国のアーティスト、写真家ら各国5人ずつの写真作品が一堂に会する展覧会となります。京都を拠点に国際的に活動する現代美術家が企画しました。アートで京都五条の魅力を発信する GOJO GRAPHIE (ゴジョウグラフィ) 実行委員会、韓国の驪州 (ヨジュ) 国際写真フェスティバルが協力。1689年創業の半兵衛麩 (京都市) が会場を提供しています。

※参考画像は添付の関連資料をご参照ください

【展覧会開催の背景】

1965年6月22日、日韓両政府が、国交正常化に向けて日韓基本条約に署名しました。この展覧会は、韓国生まれで京都市立芸術大学大学院で学び、日本と韓国を行き来しながら京都を拠点に国際的に活動する現代美術家ベ・サンスン (53歳。1971年7月7日生まれ) の企画によるものです。

ベ・サンスは両国のあいだには「確かに時に摩擦があり、誤解もありました」としながらも、波の音や山の稜線、器に注がれる一滴の水にさえ、共鳴するような感性を宿してきた、と共通性を感じています。「この展覧会は両国に根ざす自然観・民藝的精神・時間の感受性を再び見つめ直す試みです。『間』とは、単なる空白ではなく、言葉と言葉のあいだにある沈黙、光と影の狭間に揺れる空気、心と心が出会うための距離。しかし同時に、その『あわい』には、静かに共振する文化の余白が存在しています」と趣旨を話します。

日本より出展する中野智文 (46歳。1978年10月17日生まれ) は「韓国で滞在制作した作品も展示します。韓国のアーティストと競演することで、両国による文化交流がますます深まるはず。世界的に見ると、日本と韓国は『パラレルワールド』のように似ているが少し違うことがとても面白い」と両国5人ずつのアーティストが競演するのを楽しんでいます。

日本より荻野 NAO 之、中澤 有基、八木 ジン、渡邊大夢、中野智文、韓国よりベ・サンスン (Sangsun Bae)、ジフ (Jihu)、ハ・ウル (Ha Eul) リュ・ビュンウォク (Byungwook Ryu)、キム・テヒョン (Kim Taehyun) の10人が出展します。彼らの作品は韓国、驪州 (ヨジュ) 国際写真フェスティバルでも2025年秋に展示予定です。

展覧会「** 間間 (ま) をつくる — 韓と日のあいだに」は京都市の「ホール Keiryu」(〒605-0903 京都府京都市東山区上人町433 (半兵衛麩五条ビル2階/半兵衛麩本店北側)) で7月28日まで。開館時間は10時から17時、水曜定休。

※展覧会名「** 間間 (ま) をつくる — 韓と日のあいだに」の「**」(アスタリスク) は省略可能です。

<報道関係の方からのお問い合わせ先>

広報担当) 中野智文 メール tomofuminakano1017@gmail.com

主催: 大原野スタジオ (運営 ベ・サンスン)

https://www.oharanostudio.com/

協力: YIPT (驪州国際写真フェスティバル)、GOJO GRAPHIE、半兵衛麩

7月4日10時-17時にオープニングトーク、ギャラリーツアーを行う予定です。展覧風景の撮影、アーティストへの取材など行っていただけます。

関連資料

<参考画像 出展予定作品 1 >



< 作品説明 >

Quercus Phillyraeoides (Ubamegashi Oak Forest ii より) © Sangsun Bae

<アーティストのプロフィール>

ベ・サンスン / Sangsun Bae

韓国生まれ、2008年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士(後期)課程満期退学。その後は、韓国と日本を行き来しながら京都を拠点に国際的に活動する。2005年と2008年にVOCA展「現代美術の展望 - 新たな平面の作家たち」に選出され、紐や結びをモチーフにしたインスタレーションや陶芸作品を発表する。近年は、日韓の近現代史の researched に基づく写真作品や記録資料を収集、リサーチを元にした画像作品を手掛け、公益財団法人韓昌祐・哲文化財団の助成対象『KG+SELECT2019』に選出されるなど、写真と設置作品にも活動の場を広げている。2022年よりOHARANOSTUDIO GALLERYを立ち上げ、西京区大原野で文化的な発信や活動の場を提供する。

<https://www.sangsunbae.com/>

<参考画像 出展予定作品 2>



<作品説明>

食材としてのヤギ、韓国 (Gibier The dead animal portraits より) © Tomofumi Nakano

<アーティストのプロフィール>

中野智文 / Tomofumi Nakano

1978年兵庫県出身。新聞編集者を経てEPA通信社で報道カメラマン。同社を通じてアメリカ、ニューヨーク・タイムズ紙、イギリス、ガーディアン紙などに写真が掲載される。その後、食材としての動物などを題材にしたファインアート作品に取り組む。2024年 Galerie Lichtblick (ドイツ・ケルン)、2018年平遥国際写真祭 (中国・山西省)、2017年コルガ・トビリシ国際写真祭 (ジョージア・トビリシ) で展示。2017年レンズカルチャー、エマージングタレントアワード (オランダ) 受賞。2010年コニカミノルタ・フォトプレミオ年度特別賞 (日本)。オランダのアート誌「GUP」は「先鋭的」と評している。

<https://www.tomofuminakano.com/>